

近旅連総会特集

激変する旅館・旅行環境に

少し違うのではないかと。いずれにしろ、将来を考えた時、民泊はあってもいいが、条件をきちんとして整備すべきだろう。

17年度の取り組み

新しい展開 訪日の取り組み 会社・旅連への期待

17年度も始まっているが、どんな事業展開を考えているか。

戸川 統合以来、成長分野として訪日旅行事業、スポーツ事業、そして地域観光交流事業の3本の柱を掲げ、経営資源を集中してきたが、引き続き17年度もこの分野を重点的に展開していく。

戸川 個人旅行のテコ入れを視野に入れ、6月からタイナミックパッケージ(DP)を開始する。第1次フェーズとして新幹線を利用したDPを発売し、順次、航空機利用機能も整備し、宿泊券販売に効果的に活用していきたい。

戸川 インバウンド市場は拡大の一途をたどり、東京五輪・パラリンピックまでは成長が見込める分野だ。ビジネスとして成立するかという議論は、KNT-CTH

消費者保護制度のあり方など規制強化の動きもあるが、これは例外的な事案だと思う。旅行業界としては、マイナスイメージで、消費者の目も厳しくなるだろうが、多くの企業はしっかりと対応しているというところを理解していただきたい。

6月から国内DP開始 宿泊券1070億円の必達を

西野目氏 戸川氏

Dとして大に取組みたい。Dとして大に取組みたい。Dとして大に取組みたい。

戸川 団体については昨年1月にグローバルマーケットインク事業部を開設、個人については17年に「訪日P-Tセンター」という専門部署を設けて取り組んできた。

戸川 グループ全体で取り組むという体制にはまだなっていないが、これもグループ横断的な組織を近々立ち上げる。個人旅行、クルーズも含めて、オリエンタル・パライティックの需要を取り込める

戸川 海外の旅行会社との連携強化はもう、現地法人の開設も検討する。昨年9月、中国での海外旅行需要の取り込みを目的、近畿観光国際旅行社(上海)有限公司を上海の経済特区に設立し、今年1月からは営業を開始している。



西野目氏(左)と戸川氏(右)が握手を交わしている。

共に歩み改革の成就を B&B&C合い言葉に

西野目氏 戸川氏 提供客の消化率向上は我々の義務であり、真剣に取組まなければならない。提供客の消化状況から早期のレトリバインを依頼させて、ただことにより、需要喚起を促す取り組みを考案している。また、提供客を活用したクリエティブな高いオリエンタルプランによる早期予約の促進を図りたい。

平成29年度 近旅連通常総会開催おめでとうございます。

全国ひまわり会は、近畿日本ツーリストおよびグループ会社を全力でサポートします。

Table with 4 columns: Position (名誉会長, 会長, 副会長, 理事), Name, Company, and Region (e.g., 戸川 和良, KNT-CT, 全国ひまわり会中部地区会).